

匝瑳市区長会「まちづくり座談会」概要

テーマ：

匝瑳市の今後の展望～人口減少、少子高齢化の中での産業振興と後継者育成～

- 1 日 時 平成27年10月6日（火）18時30分～20時20分
- 2 場 所 八日市場公民館視聴覚室
- 3 参加者 匝瑳市区長会役員15人（内1人代理出席）
- 4 市職員 市長 副市長 秘書課長 企画課長 総務課長 財政課長
税務課長 環境生活課長 健康管理課長 産業振興課長
福祉課長 高齢者支援課長 市民病院事務局長 学校教育課長
生涯学習課長
- 5 概 要
 - （1）座談会趣旨説明
 - （2）開会
 - （3）区長会長あいさつ
 - （4）市長あいさつ
 - （5）座談会
 - （6）閉会
- 6 座談会の概要

座長

本日のテーマは、「人口減少、少子高齢化」「産業振興と後継者育成」である。
最初に「人口減少、少子高齢化」に関わる発言をお願いする。

発言者

まず、人口構成について伺いたい。県下どこの市町村も人口減少になっていると思うが、その中で、本市はどのくらいの位置にいるのか。次に、人口減少対策として、本市の定住、移住を考えると、住みやすい、住んでみたいという環境が整っていること、特に子どもを産み育てやすい環境の整備が重要で、それには、

医療充実が非常に大切ではないかと思う。本市では、産科、小児科の休日・夜間・救急の対応ができていない状況であるが、今後どのような対策を考えているか。

市長

医療、病院体制についてお答えしたい。市民病院の医師確保に向けて千葉大や旭中央病院にお願いしているが、なかなか補充が効かない。年々医師数が少なくなっているような中で、小児科あるいは産婦人科を市民病院に置くのは残念ながら無理な状況である。

匝瑳医師会の中の開業医は、市民のために頑張ってくれている。救急を主眼とした市民病院で足りない部分は、医師会と連絡を取りながら、市民の健康のため引き続き取り組んでいきたい。

人口の関係は、企画課長からお答えする。

企画課長

匝瑳市が合併した平成17年度は、国勢調査が行われた。その際の国勢調査人口は42,086人。国勢調査の人口から毎月の人口の異動を差し引いた常住人口が、平成27年9月1日現在で、37,631人。合併時と比較すると、4,455人減少。率にすると10.6%という非常に大きな減少率となっている。県内37市中35番目、下から3つ目である。

発言者

減少の順番はどれくらいになっているか。銚子市が一番多いと思うが。

企画課長

銚子市は確かに人口減少が大きい。あと、館山房州、安房夷隅それから海匝の人口減少率が非常に大きい。手元に資料がないので、匝瑳市がどのくらいの位置かは申し上げにくい。

発言者

旭市より匝瑳市の方が人口減少は進んでいると思うが。

企画課長

はい。

発言者

小児科は開業医の先生方が頑張ってくれているとあったが、夜間・救急が開業医では対応できず、旭中央病院あたりに行くらしい。また、産婦人科の場合は、市内では1か所と聞いており、こちらも旭中央病院の方へ行ってしまう。今すぐに解決できる問題ではないが、人口減少を食い止めることができるのではないかと思うので、市民病院の中に産科を設けていただきたい。

市長

貴重な御意見ということで承らせていただきたい。

発言者

近所に空き家が結構ある。市の空き家対策はどうなっているか。

市長

空き家バンクという制度がある。企画課長から説明する。

企画課長

空き家バンクの制度は、貸したいあるいは売りたい空き家を登録していただき、また、匝瑳市にある空き家を購入したいあるいは借りたいという人にも登録していただく。そして宅建業者がこれらのマッチングを図っていくという制度である。空き家の登録は、住める状態でないとできないので、私どもの方で、状態を見せていただいた上で判断して、登録することになる。今年度から、空き家バンクを活用して契約が成立した場合に、空き家所有者に5万円をお支払いする制度を設けた。

発言者

市民協働に関する意識が地元住民は非常に薄い。まちおこし、むらおこしとい

うのは、人が動かないと行政一本ではうまくいかないと思う。昔は、野栄町のころは、区長がリーダーとなって地区をまとめ、かなりにぎわっていた。今は、若い人は、ほとんど区まかせ、行政まかせ。「そっちでやっておいてください」というのが非常に強い。地域コミュニティーが、少子高齢化によってだんだん接点がなくなってくる。隣の住人までもわからない状態が将来くると思う。そういう点を行政はどのように捉えているのか。行政と市民のパイプ役として区長をやっているが、そういうのを行政がどう捉えているか聞きたい。

市長

行政からすると、区長さん頼りという場面が非常に多い。区長さんは苦慮されていると思う。市民協働のまちづくりに関する条例の制定に向けて進めているが、市民一人一人が理解、参画してくれる内容にする、また、PR、啓発していかなければならないと考える。

発言者

環境保全に関しての組合をつくると、活動に対して、かなり交付金が交付される。あれをやると集落の人がみんな出てきて、親睦ができる。市内では今どのくらいあるのか。

産業振興課長

今時点は21団体だが、これからやりたいという地元からの問い合わせを2、3件受けている。

発言者

こういった補助があると、それによって親睦が図られて、みんなが集まり地域の振興が図られる。そして、その他へもつながる。区長会の方も、区長のリーダーシップでいろいろ行くと、たくさんの人が一堂に会し、親睦を図りながら地域づくりをやっていくと、それがやがては市の活性化にもつながるという流れになると思うが、予算がない。各区に予算を盛っていただければ、区長がリーダーシップをとって、市の振興も図られるしいろんなことができると思う。区の方に、

もうちょっと予算付けすることはできないか。

副市長

地域振興協議会の運営という形でやっている。環境生活課長から説明をする。

環境生活課長

地区ごとのさまざまな活動にコミュニティー活動事業の補助金として地域振興協議会へ補助している。

発言者

今までの行政の方からの流れを、区長独自の判断で変えてもよいか。地域振興に関係すれば、どんなことをやってもいいのか。

環境生活課長

各地区で「これがやりたい」ということがあれば、地区で検討していただければというように考えている。

座長

次は、「少子化対策について」、発言をお願いします。

発言者

私の意見は、「魅力ある良いものがまちにあれば人は集まるだろう」というもの。1年や2年の話ではなく、50年、100年、皆さんがこういう考えを匝瑳市に浸透させて、住民の方からもっときれいな街並み、色彩のきれいな街並みにしたいという意欲が湧き起これば、自然と美しい街並みができると思う。美しい街と交通の便がよかったら、東京からもどんどん人は集まると思う。行政も市民も今までと違った価値観でまちづくりを目指すと、そういうものをしていく過程で、病院とか子どもの教育とか、後継者育成にも結び付いていくと思う。

市長

貴重な御意見ということで承らせていただきたい。

発言者

先ほどの人口減少の話の中で、合併10年で4,455人減少ということは、年間にすると400人強の人口が減っているわけだが、どこの世代の年齢層が一番減少したかを聞きたい。それと、若者が地元に着して、結婚、子育てをできるような企業が匝瑳市に果たしてあるかどうかということが考えられる。匝瑳市にないから、若者が出て行ってしまう。匝瑳市になれば、匝瑳市からの通勤圏、千葉、成田、空港関係、神栖あたりまで、市長や課長に就職先のトップセールスをやっていただければ、若者が市に着して人口減少に多少歯止めがかかるのではないかと思う。これからは高齢化が避けて通れない時代なので、いかに若者を市に着させるかというのが一番問題だと思う。

市長

執行部こそって人口増に向けて頑張れということをお心に銘じて、頑張らせていただく。人口の減少の年代別のことは企画課長からお答えする。

企画課長

年少人口である15歳未満の減少が一番大きい。時系列分析の中では、高校を卒業して大学あるいは就職等で、15歳から24歳、この間の転出が非常に多いという数字が出ている。社会減となっている。こういった方たちが以前は25歳以降若干戻ってくる傾向にあったが、近年、この戻ってくる傾向、社会増に転じていた部分が、社会増に転じなくなってしまった。そういうところで、戻ってもこなくなってしまうということが現状で把握できている。

発言者

20歳から50歳くらいまでの未婚の男性はどのくらいか。

企画課長

未婚者の数字は手元がないので、この場での回答は難しい。

発言者

少子化対策として、子どもを産むための推奨施策として、子ども手当ではないが、国県ではなく匝瑳市独自に何か打たれたらどうか。栢田2区は子ども会が成り立たなくなっている。子ども会は小学生が12人くらい。会の衰退を食い止め何とか活動していこうと手を加えて維持しているところである。

市長

大きな予算ではないが、匝瑳市は医療費の中学3年生までの無料化や、保育所保育料、幼稚園保育料等の第3子以降の無料化を先駆けて行っている。これからも、そういう形で、子どもを産み育てやすい環境づくりに引き続き取り組んでいく。

副市長

市長の第1期マニフェストでメインの一つに、子育て支援対策ということで取り組んでいる。せっかくの機会なので担当課長から紹介させていただく。

福祉課長

子育て支援策として、第3子以降の保育所保育料と幼稚園保育料等の無料化を行っている。それから、中学校卒業までの子どもの医療費を無料化している。子ども手当という形では支給していないが、それ以外の部分で、子育て支援の具体的な経済的な支援を実施している。

学校教育課長

給食費についても減免措置がとられている。第3子以降、第3子は50%減免、第4子以降は無料とし、支援している。

座長

次のテーマ、「産業振興と後継者育成」に移る。

発言者

7月まで農業委員をやってきた。その間、各地のJAや農業委員会に話を聞きに行った。そして、地域振興や農業振興に関心を持って、匝瑳市の農業委員会や産業振興課に提案をしたが返事がなかった。市の産業の一つである農業をどうしていくのかという点での柱がないのではないかと聞いていく、振興していくというような構えが、市としてないのではないかと感じている。旭市のホームページには助成制度一覧表が出ているが匝瑳市にはない。国県の振興策を積極的に受け入れて、市の農政に生かしていく構えが弱いのではないかと感じを持っている。私は、ブルーベリーを市として振興し、観光農業につなげたらどうかと思っている。市は農業振興に対して、もっと積極的に考え勉強していく構えが必要ではないか。

市長

農業は基幹産業ということで「いの一番」に取り掛かっている。国県の制度には注視するよう指示しているところである。不備なところは御指摘いただいて、農業振興に向けた体制づくりに取り組んでいく。

産業振興課長

匝瑳市でも、旭市のホームページに掲載されている事業の5割くらいは同様の事業を実施している。しかし、旭市のような形でホームページに掲載していないので、農業者が情報を得ていない状況である。旭市を見習い、ホームページに掲載するように考えているところである。

発言者

今、無公害型の環境改善ブームである。植木残渣、生ごみ、食品残渣、家畜糞尿、下水処理を資源として使用するバイオマス発電事業を提案したい。この事業により見込める効果としては、これまで焼却していた生ごみなどを活用すること

による、ごみの削減と温室効果ガスの削減や、発電した電気を公共施設に利用することによる電気代削減、売電収入が挙げられる。また、公共施設などへ電気自動車充電スタンド施設を設置し、その電源に再生可能エネルギーを使用することで、海と緑の自然豊かな街にクリーンイメージが付加され、さらなる観光振興が見込める。さらに、バイオマス発電時の最終残渣の一部を液肥や有機堆肥として活用して農業振興を進めると、特産の赤ピーマンやブランド米「匠瑛の舞」の付加価値向上が見込める。

匠瑛市について調べ直してみたところ、自然豊かな街であるだけでなく、歴史、文化的財産が多くあることを改めて知った。このすばらしい街を次の世代にも残していきたいと願っている。一刻も早く、市長が掲げる重点施策の全項目達成をお願いしたく提案した。

市長

バイオマスの件は、国の方からも話がある。匠瑛市の場合、稼働する燃料が少ないだろうということと設備費用が意外と掛かることを考えると、ハードルが高い施策だと考える。研究させてもらう。

発言者

産業振興と後継者育成に、産業、学校、行政の連繋プレーの異業種交流ネットワークづくりがよくテーマに上がる。小中高生の企業見学会とか、子どもにそういうものに興味を持たせると、匠瑛市の中で頑張ろうという気持ちが湧き起こるのではないかと思うが、市として、イベントでも異業種交流ネットワークでも行政サイドから関わっている実績があれば教えてほしい。

市長

企業や社会の見学ということで、小学校で授業に取り入れているようである。市長室には、八日市場小の3年生が見学に訪れる。また、来週は、中学生模擬議会ということで、議場を借り、中学生議員の市政に対しての勉強会が計画されている。

学校教育課長

小学校、中学校、高校でキャリア教育というようなことが実施されている。小学校では職業に対して夢や憧れ、希望といったものを自分の中にイメージとしてつくらせることが狙いで実施している。中学生は実際に職業見学、職業体験をし、正しい勤労観や職業観を形成することを目的として実施している。26年度は市内149事業所で実施させていただいた。

発言者

いろいろやっているということが分かった。そういった過程の中で、子どもたちへの啓蒙を強力にされたらよいのではないかと思う。子どものころにいいものを体験させ、いいものを見せる。これが30年、50年先にいいものが生まれるのではないかと期待できる。そういうことで、先ほどの意見を出した。

市長

御意見感謝申し上げます。

座長

高齢者のための福祉施策について伺いたい。高齢者人口が増加する中、平成37年、団塊の世代が全て後期高齢者となる。今後いかに高齢者の健康を増進して、介護予防を進めていくのかを伺いたい。

市長

高齢化社会に当たっては、演芸会でもカラオケでも、元気でやれるような体制づくりが必要ではないかと思う。健康寿命を延ばすいろいろな施策を講じなければいけないだろうと思っている。

高齢者支援課長

団塊の世代が後期高齢者となる10年後を見据え、高齢者にいかに地域で暮らしていただくかということを考えた中で、先進事例として紹介されているのが運動教室である。匝瑳市でも「いきいきげんき倶楽部」という運動教室を開催して

いるところだが、そのあたりをもっと広めて、介護予防を進めていきたい。団塊の世代の方には、介護予防をしていただく、あるいは介護サービスの提供者にもなっていただけるような仕組みづくりを進めていきたいと考える。

発言者

農業の勉強会とか、行政の持っている知識を市民に伝えられるような勉強会の開催について、行政側で手伝ってもらえるか。

市長

勉強会の問い合わせは担当課の方へしてもらって構わないと考える。

産業振興課長

産業振興に関しては、産業振興課へ問い合わせいただければ、いろいろと調べて答えさせていただく。

発言者

日本の農業は米だけやっていたのではしょうがない。先ほどのブルーベリーの技術のように知識を多く持っていれば、選択肢が広がる。その中で、経営的に成り立つような仕事ができれば若者が農家の後を継いでくれるかもしれない。

市長

そういった向学心は行政の方へ言ってもらえれば手伝わせてもらう。

発言者

環境保全に関する組合の立ち上げに苦労している。設立について行政の方でバックアップしてもらえると助かる。

産業振興課長

設立申請時にいろいろな書類が必要となる。団体の方で分からない部分があれば、可能な限り産業振興課の方でサポートをしている。今後も、相談があれば対

応する。

発言者

須賀地区には1,200世帯ぐらいあるらしいが、区費をいただいているのは、750世帯ぐらいである。この数値からすると、行政の通知が末端の住民まで届いているのか、あるいは末端の住民の声が市へ伝わっているのかということを考えてしまう。

高区では区長が神社の仕事も行うのだが、12集落あるうちの新しい4集落からは、「神社関係はやらない」「区長は引き受けない」といわれている。旧来の8集落で持ち回りをし、他の関係も、神社関係のお金もこの8集落から集めている。

自分の住む集落でも人口が減っている。新しく家も建つが、集落には入ってくれない。ギャップも出てくる。新しい住人には小学生がいるが、古くからの住人の中には孫も子どもも小学校へ通っていないという状況で、学校の運動会の際に区費から支出すると、「なぜ区費から小学校の運動会へ払わなければいけないのか」との声が上がっていて、そういう住民間の軋轢も出てくる。区長としては、やりにくい場面も出てくる。市からは回覧の依頼が、地元からは市への依頼がどンドンくるが、行政と民意をどうくむか、狭間にある我々区長の役割は非常に任務過多になってきていると感じ、次の区長を選ぶのにどうなるかと心配している。

発言者

それは、どこでも同じだ。

発言者

区費を払っていない人たちへの連絡、広報などは行き渡っているのか。

秘書課長

広報そうさは、新聞を取っている方については毎月1日に新聞折込でお届けしている。新聞を取っていない方へは市から郵送している。

発言者

回覧はどうなっているか。

(「郵送している」という声)

発言者

申し込んであればだが。

発言者

区費を払わないということは考えられない。

発言者

新住民は払わない。

発言者

これはひと言でいうと、文化というか意識の違い。新興住宅地の方々、宗教意識がない方々は神社仏閣関係の募金はボイコットする。古くから住んでいる人は、昔からこうやっているから、よくわからないが、とにかくやるんだということをやっている。新しい人たちは文化遺産を守るという意識で神社仏閣の行事に協力するのであれば成立するが、そういう意識もない宗教も違うということであれば、神社行事には参加しないということになる。それを押し進めると、うるさいから地区には加入しないとなる。

発言者

天災時に社協の人たちは高齢者を支えなければいけないということで回っている。区から社協へ分担金を出し、社協の人たちは、区費を払わない高齢者や弱者に補助を出しているという問題が出てきている。仕方ないとは思いますが、行政と区と市民のキャッチボール、その辺を何らかの方法を考えていかないと市民協働というものがなくなってしまうのではないかという気がしている。

地区で炊き出し訓練の実施についての会議を行った際、反発が出た。「地震、

津波はない。だから参加しない」という発言が連絡員からあった。地域のために頑張ろうとしている社協の人たちは困ってしまう。結局こぢんまりやろうとなったが、市民協働とは言うものの、俺には関係ないという人が存在してきている。どうしたらいいのかと考えてしまった。

座長

終了の時間が近づいた。

発言者

ひとつ聞きたいことがある。市民協働に絡めたまちづくり委員会のメンバーはどのような構成か。

企画課長

団体代表という立場で、区長会長に入っている。また公募で5名の市民に入っている。全部で13名が委員になっている。その中で、市民協働のまちづくり指針を検討している。

発言者

1回目の会合は持ったのか。

企画課長

3回開催した。

発言者

参考になるように、区長会だけでなく、他の人も紹介を。

企画課長

農協、社会福祉団体など市内の各種団体から推薦をいただいて、13名に委員になっていただいている。

市長

団体名を全部紹介するように。

企画課長

手元に資料が無く、申し上げられない。

発言者

広報で募集をかけていたものか。

企画課長

広報で公募した。市民代表ということで、5名の方に公募の委員になっていただいた。

発言者

まちづくり委員会の会議の内容は、市民に伝えるのか。

企画課長

内容をとりまとめ次第、市のホームページで公表している。

発言者

予定の時間を過ぎたが、本日の座談会を通じて市長から何かあればお願いしたい。

市長

区長、特に役員の皆さんとのまちづくり座談会は、有意義な場だと思っている。機会あるごとにこのような会を開催していただければありがたい。

以上